

保健体育科における宿泊を伴う自然体験活動が 教員を目指す学生の意識に与える影響

下永田修二¹⁾ 七澤朱音¹⁾ 西野 明¹⁾ 杉山英人¹⁾
小宮山伴与志¹⁾ 佐藤道雄¹⁾ 坂本拓弥²⁾

¹⁾千葉大学・教育学部 ²⁾明星大学・教育学部

Influence on Student's Consciousness by Natural Experience with Lodging in the course of Health and Physical Education

SHIMONAGATA Shuji¹⁾ NANASAWA Akane¹⁾ NISHINO Akira¹⁾ SUGIYAMA Hideto¹⁾
KOMIYAMA Tomoyoshi¹⁾ SATO Michio¹⁾ SAKAMOTO Takuya²⁾

¹⁾Faculty of Education, Chiba University, Japan

²⁾Department of Education, Meisei University, Japan

本研究では、教員養成段階における宿泊を伴う自然体験活動経験が教員を目指す学生の意識の変化に与える影響を検討した。

千葉大学教育学部中学校教員養成課程保健体育科教育分野では、1年次の新入生セミナーから水泳実習、スキー実習、野外活動実習、保健体育科教材研究Ⅳ（実地指導方法論）、そして、大学院の野外実習実践研究とすべてを履修すると6回の宿泊を伴う自然体験活動を経験し、自分の実習経験を重視した活動から、運営、指導を重視した活動へとステップアップしていくカリキュラム構成となっている。このカリキュラムを通して教員を目指す学生が実際に自然体験活動を指導する際に必要な資質能力を向上させているのか検討するため、受講生に対して、実習の前後に「自然体験活動を指導するために必要な資質」に関するアンケート調査を実施した。その結果、教員を目指す学生は大学入学当初は、自然体験が不足している傾向がみられたが、自然体験活動も1回だけでなく、複数回体験することにより、より自然に対する知識、理解、指導能力を高めることができることが示された。さらに、自然体験活動を指導する際の資質能力を伸ばさせていくためには、養成段階においても、小・中学生の自然体験活動の指導補助等を経験できるようなカリキュラムを充実させていくことが重要である。

Purpose of this study was to make an investigation into the effect of natural experience with lodging to student's consciousness in the course of health and physical education.

There are five natural experience classes with lodging (Seminar for new students, swimming camp, skiing camp, outdoor activity, study for teaching materials in physical education IV) in the faculty of education and one class in the graduate school. In the first step of this curriculum, students learn the skills and knowledge of each activity. Second step, they learn the skills and methods of managing the natural experience with lodging. In this study, the questionnaire surveys of instruction abilities for natural experience with lodging were conducted for students. In the first step, the lack of natural experience with lodging was shown. However, their knowledge, understanding and instruction abilities were developed with gathering natural experience.

キーワード：自然体験活動（Natural Experience） 水泳（Swimming） スキー（Ski）
野外活動（Outdoor activity） 集団宿泊活動（Group Lodging activity）

I. はじめに

本稿では、教員養成段階における宿泊を伴う自然体験活動経験が教員を目指す学生の意識の変化に与える影響を検討する。

近年日本国内では、少子高齢化や核家族化などにより家庭環境が変化し地縁的なつながりが希薄化し、地域コミュニティが衰退する傾向にある。これに伴い、子どもたちの地域での遊びや活動の場が減少し、子どもが社会

性を身につける機会が少なくなっている^{1)~4)}。また、IT化、携帯電話の普及など生活の利便性が増加したのに対して、継続して物事に取り組んだり、何かを成し遂げる機会が減少し、子どもの社会性や意欲の低下を招いていることが指摘されている¹⁾。これを受けて、平成10年に改訂された学習指導要領から、教育課程編成の一般方針のふたつめの項目である道徳教育に関する記述の中で、「教師と生徒及び生徒相互の人間関係を深めるとともに、生徒が人間としての生き方についての自覚を深め、家庭や地域社会との連携を図りながら、ボランティア活動や自然体験活動などの豊かな体験を通して生徒の内面

連絡先著者：下永田修二 shimo@faculty.chiba-u.jp

に根ざした道德性の育成が図られるよう配慮しなければならない」と示されるようになった⁵⁾。また、平成10年に改訂された中学校学習指導要領保健体育の内容においては、「自然とのかかわりの深いスキー、スケートや水辺活動などの指導については、地域や学校の実態に応じて積極的に行うことに留意するものとする。」と示され、自然とのかかわりの深い活動に水辺活動も追加され、自然体験活動をより積極的に行う方向性が示された。平成20年に改訂された現行の中学校学習指導要領、そして、平成29年7月に示された中学校学習指導要領においても第1章「総則」における道德教育に関する事項の中で、自然体験活動を充実させることが示されている⁶⁾⁷⁾。また、教育課程の実施と学習評価において、各教科等の特質に応じた体験活動を重視することが示され、今後、体験活動を体系的・継続的に実施できるよう工夫することが求められている。

これまで、教員養成段階における自然体験活動については、その意義や在り方について議論が行われてきた⁸⁾⁻¹¹⁾。これらの研究においては、教員養成課程における自然体験活動を含む様々な直接的体験の必要性が述べられており、カリキュラムに自然体験活動を必須科目として位置づけていくことが必要であると述べられている。

Ⅱ. 学校教育における集団宿泊活動

集団宿泊活動については、学習指導要領特別活動編の学校行事において集団宿泊的行事として取り上げられており¹²⁾、その教育的効果等に関する研究はこれまでも多く報告されている¹³⁾⁻¹⁶⁾。そして、平成20年の学習指導要領特別活動編改訂の際には、集団宿泊活動の期間について、学期中や長期休業期間中に1週間程度にわたって行うことにより、一層意義が深まることが示された¹²⁾¹⁶⁾。

Ⅲ. 集団宿泊活動および自然体験活動に関するカリキュラム

千葉大学教育学部中学校教員養成課程保健体育科教育分野では、教員を目指す学生が集団宿泊活動および自然体験活動を段階的に経験できるように、宿泊を伴う自然体験活動を教員養成カリキュラムの中に組み込んでいる(表1)。1年次には、入学して間もない4月に1泊2日で、千葉大学教育学部臨海実習所において、新入生セミナー宿泊研修を実施している。これは、集団生活の運営、指導方法を学ぶ準備段階として、まず、自ら集団生活を経験し、仲間と協力して活動することの意義について学習するプログラムである。なお、このセミナーには、大学院教育学研究科の新入生も参加している。大学院生は教員免許取得者が多いため、積極的に指導的役割を果たすことが目指されている。このセミナーでは、事前に役割分担を討議し、その後役割ごとにグループがそれぞれの役割内容の詳細を具体的に検討するが、その中には運動実践プログラムも含まれている。それにより、新入生がセミナーに積極的に参加するという当事者意識を持つようになることが試みられている。

新入生セミナーでは、宿泊生活全般を学生同士が協力

して運営し、運動実践、大学院生及び若手の現職教員の講話、ワークショップ、ボランティア活動を行う。ワークショップは、それぞれのグループが選んだ教育関係のテーマに関してグループディスカッションを行い、発表用のポスターを作成し、プレゼンテーション及び討議を行うものである。このように、このセミナーは今後の4年間を教員養成課程で学ぶことの認識を深めるとともに、大学院の教員免許取得者及び取得志望者が教職という専門職を強く意識するように構成されている。

水泳、野外活動、スキー実習では、それぞれの実習の単位修得者が指導補助にあたることができるような授業(「保健体育科教材研究」)を開講し、更に、大学院生が学部生の指導補助者に対する指導的役割を担うための大学院の授業(「実地指導方法論」)も開講している。これは、自分がすでに参加した実習体験をもとに、指導者としての意識を持って、集団生活の運営、指導方法を学習する授業となっている。

まず、必修科目として、1年次の7月に3泊4日の水泳実習を実施している。その際、プールでの事前実習において、基本的泳法の技能習得を行った後、各グループに別れ、教員、補助学生・大学院生が協力して海での実習に向けた指導を行っている。その後、海という自然環境の中で、遠泳を含んだ実習を行う。この水泳実習では、集団で遠泳を実施するときの実施方法、安全管理を体験しながら学習を進めていく。実習中は各日程の終了後に、補助学生・大学院生と教員がその日の実習の内容の確認と反省を行い、翌日の実習の内容及び体制について確認し、受講生がその日の実習内容について記載した内容について補助学生・大学院生、教員がそれぞれの立場からコメントを行い、実習が各受講生の状況を確認しながら進められるように構成されている。なお、水泳実習では、練習用のAEDや人形を用いた「一次救命(BLS)」に関わる実習を教員、補助学生・大学院生が協力して行い、また、海での救助法の実技も行っている。

スキー実習(2月)及び野外活動実習(9月)はともに3泊4日の選択科目となっている。スキー実習はゲレンデにおけるスキーが中心であるが、スキーの技能習得とゲレンデの安全な活動、集団生活について学習する。野外活動実習は2年生以降の受講生になっており、多くの受講生が3つ目の実習になることから、実習の事前準備から実習中の運営(テント設営、調理等)、事後の整理まですべて受講生が実施する内容となっている。つまり、指導者として必要な知識についても学習できるようなプログラムとなっている。

このように、1年次の新入生セミナーから水泳実習、スキー実習、野外活動実習、保健体育科教材研究(実地指導方法論)、そして、大学院の野外実習実践研究とす

表1 千葉大学教育学部保健体育科の集団宿泊活動および自然体験活動に関する科目

必修科目	選択科目
新入生セミナー 水泳	野外活動 スキー 保健体育科教材研究IV (実地指導方法論)

べてを履修すると6回の宿泊を伴う自然体験活動を経験し、自分の実習経験を重視した活動から、運営、指導を重視した活動へとステップアップしていくカリキュラム構成となっている。

Ⅳ. 自然体験活動指導に求められる教員の資質能力に関する調査

近年は子どもだけでなく、教員や教員をめざす学生に集団宿泊活動および自然体験活動が不足しているという指摘も少なくない¹⁷⁾¹⁸⁾。これまで述べてきたように、千葉大学教育学部中学校教員養成課程保健体育科教育分野では、集団宿泊活動および自然体験活動を段階的に経験することができることを目指してカリキュラム編成を行っている。このカリキュラムを通して教員を目指す学生が実際に自然体験活動を指導する際に必要な資質能力を向上させているのか調査していくことは、教員養成カリキュラムを検討、改善していく上で重要である。長澤(2002, 2004, 2005)、別惣ら(2003)は、社会教育施設の青少年教育指導者を対象にした調査を手がかりに、自然体験活動指導に求められる指導者の資質能力に関する調査項目を検討している^{17)~21)}。これらの自然体験活動指導に求められる指導者の資質能力に関する調査結果を参考にし、本研究では43項目の質問項目を作成した(表2)。

調査対象は、平成27年度、28年度に実施された水泳実習、スキー実習および野外活動実習の授業とした。

調査対象とした各実習の受講生は水泳実習62名、スキー実習41名、そして野外活動実習22名であった。受講生に対して、実習の前後に「自然体験活動を指導するために必要な資質」に関するアンケート調査を実施した。各質問項目とも5段階評価(1:できない, 2:あまりできない, 3:どちらともいえない, 4:できる, 5:十分にできる)とし、調査を実施する時点で教員として生徒を指導することが十分可能かどうかを回答してもらった。

統計解析は二元配置分散分析を行い、多重比較には、Bonferroni法を用いた。

Ⅴ. 調査結果

1) 自然体験活動前後の調査項目の変化

3つの実習におけるすべての調査項目の平均と標準偏差を表3に示した。水泳実習前後のすべての調査項目の平均は、事前 3.16 ± 0.96 、事後 3.80 ± 0.84 であった。スキー実習は、事前 3.29 ± 0.76 、事後 3.78 ± 0.74 、野外活動実習は事前 3.20 ± 0.93 、事後 3.95 ± 0.78 であった。

すべての実習において、実習前後に1%水準で有意差がみとめられた。

2) 自然体験活動ごとの比較

3つの自然体験活動の実習前の調査結果を比較したところ、有意差は認められなかった。実習後の3つの実習の平均値を比較したところ、5%水準で有意差がみられた。多重比較を行ったところ、スキー実習と野外活動実習との有意水準が $p=0.06$ であり、野外活動実習後の調

査結果がスキー実習後より高い傾向がみられた。

3) 自然体験活動後に伸長の大きかった項目

各自然体験活動ごとに、実習を通して、伸長の大きかった項目と伸長が小さい項目を分析するために、実習前の値に対する実習後の伸長の平均値に標準偏差を加えた数値以上評価が高まった項目を伸長の大きい項目とした。また、これと反対に、伸長の平均値から標準偏差を引いた値よりも伸長が小さかった項目を伸長の小さい項目とし、表4に示した。すべての自然体験活動において、伸長が大きかった質問項目は、「3. 本実習に関する知識を身につけているか」、「4. 本実習に関する技術を身につけているか」であった。水泳実習の実習後の伸長が大きかった項目として、「7. 事故等への応急処置に関する知識を身につけているか」、「8. 事故等への応急処置に関する技術を身につけているか」の2つの項目であった。スキー実習において伸長が大きかった項目は、「5. 本実習を統括責任者として指導することができるか」、「9. 自然の中から情報を読み取る能力を身につけているか」、「11. 自然観察や野外活動等の経験を十分に積んでいるか」、「18. 自然体験活動を実施する場所の知識を身につけているか」と「25. 児童・生徒に自然体験活動を指導する能力を十分に身につけているか」であった。

野外活動実習では、「11. 自然観察や野外活動等の経験を十分に積んでいるか」、「14. 自然体験活動への情熱を持っているか」、「15. 自然体験を自らが楽しめる感覚、構えをもっているか」、「18. 自然体験活動を実施する場所の知識を身につけているか」と「31. 児童・生徒の自然体験活動に対する意義と価値を理解できているか」の5項目において実習後に大きな伸長を示していた。

4) 自然体験活動後に伸長の小さかった項目

反対に、すべての自然体験活動後に、伸長の小さかった項目は「20. 一般社会人としてのマナーと常識を身につけているか」、「22. 児童・生徒に明るく振る舞うことができるか」、「36. 自分自身の健康管理ができるか」の3項目であった。水泳実習後に伸長が小さかった項目は「38. 人権に配慮し、正確で丁寧な言葉遣いができるか」のみであった。スキー実習後に伸長の小さかった項目は「38. 人権に配慮し、正確で丁寧な言葉遣いができるか」、「42. 自らが元気に、楽しく活動に取り組むことができるか」と「43. 自然体験活動を行う体力を十分に持っているか」であった。最後に、野外活動実習後に伸長の小さかった項目は、「10. 自然環境の保全と活用に関する知識を身につけているか」、「33. 児童・生徒の病気への対応に関する基礎的な知識を身につけているか」、「35. 児童・生徒への指導に関する知識を身につけているか」と「37. 社会教育の目的・意義を認識できているか」の4項目であった。

Ⅵ. 受講生の評価の高い項目

すべての評価項目の平均値より2/3標準偏差以上評価の高い項目と、平均値より2/3標準偏差以上評価の低い項目を表5に示した。水泳実習の事前評価で、評価

表2 自然体験活動を指導するために必要な資質能力に関する質問項目

1. 危機的な状況に対する対応を予見しながらプログラムを進めていくことができるか	23. 児童・生徒に安全指導を適切に行うことができるか
2. 計画どおりに進まなかった場合にその場に応じて判断することができるか	24. 児童・生徒に意欲をもって、主体性に指導できるか
3. 本実習に関する知識を身につけているか	25. 児童・生徒に自然体験活動を指導する能力を十分に身につけているか
4. 本実習に関する技術を身につけているか	26. 児童・生徒に生活習慣や社会的ルールを指導することができるか
5. 本実習を統括責任者として指導することができるか	27. 児童・生徒にレクリエーションやゲーム等を指導する技術を身につけているか
6. 参加している児童・生徒をまとめることができるか	28. 児童・生徒の安全・保健面に関する判断を適切にすることができるか
7. 事故等への応急処置に関する知識を身につけているか	29. 児童・生徒の心のケアをすることができるか
8. 事故等への応急処置に関する技術を身につけているか	30. 児童・生徒の自然観察・自然理解を指導する技術を身につけているか
9. 自然の中から情報を読み取る能力を身につけているか	31. 児童・生徒の自然体験活動に対する意義と価値を理解できているか
10. 自然環境の保全と活用に関する知識を身につけているか	32. 児童・生徒の相互人間関係づくりを支援することができるか
11. 自然観察や野外活動等の経験を十分に積んでいるか	33. 児童・生徒の病気への対応に関する基礎的な知識を身につけているか
12. 自然体験活動プログラムの企画・運営に対する指導者間の共通理解を図ることができるか	34. 児童・生徒の病気への対応に関する実際の手当方法を身につけているか
13. 自然体験活動プログラムを企画・開発することができるか	35. 児童・生徒への指導に関する知識を身につけているか
14. 自然体験活動への情熱をもっているか	36. 自分自身の健康管理ができるか
15. 自然体験を自らが楽しめる感覚、構えをもっているか	37. 社会教育の目的・意義を認識できているか
16. 自然に関する興味・関心をもっているか	38. 人権に配慮し、正確で丁寧な言葉遣いができるか
17. 自然体験活動の目標達成のための連絡調整を十分に行うことができるか	39. 他の教員、スタッフと協力するような人間関係づくりができるか
18. 自然体験活動を実施する場所の知識を身につけているか	40. 動植物、森林等の自然に対する知識を身につけているか
19. 児童・生徒が危険な場所、事故等に遭遇した場合に、適切に対応することができるか	41. プログラムの企画段階で状況の変化を予見することができるか
20. 一般社会人としてのマナーと常識を身につけているか	42. 自らが元気に、楽しく活動に取り組むことができるか
21. 児童・生徒が主体的に行動できるように促すことができるか	43. 自然体験活動を行う体力を十分にもっているか
22. 児童・生徒に明るく振舞うことができるか	

の高い項目は6項目、低い項目は4項目であった。実習後では、評価の高い項目は1項目、低い項目は2項目と実習を通して、平均値に対して、評価の高い項目、低い項目ともに減少する傾向がみられた。これは、スキー実習、野外活動実習ともに同様の傾向を示していた。特に、野外活動実習については、事前、事後ともに評価の低い項目はなく、評価が高い項目も実習前が3項目、実習後が2項目と少ない傾向がみられた。水泳実習において、実習の前後ともに評価が高かった項目は、「42. 自らが元気に、楽しく活動に取り組むことができるか」であった。逆に、実習前後ともに評価が低かった項目は「10. 自然環境の保全と活用に関する知識を身につけているか」、「11. 自然観察や野外活動等の経験を十分に積んでいるか」のふたつであった。スキー実習において、実習前後ともに評価が高い項目は、「15. 自然体験を自らが楽しめる感覚、構えをもっているか」、「16. 自然に関する興味・関心をもっているか」、「22. 児童・生徒に明るく振る舞うことができるか」、「39. 他の教員、スタッフと協力するような人間関係づくりができるか」、「42. 自らが元気に、楽しく活動に取り組むことができるか」と「43. 自然体験活動を行う体力を十分にもっているか」の6項目であった。実習前後ともに評価の低かった項目は、水泳実習と同じ「11. 自然観察や野外活動等の経験を十分に積んでいるか」であった。最後に、野外活動実習であるが、実習前後ともに評価の高い項目は「43. 自然体験活動を行う体力を十分にもっているか」の1項目だけであった。

く振る舞うことができるか」、「39. 他の教員、スタッフと協力するような人間関係づくりができるか」、「42. 自らが元気に、楽しく活動に取り組むことができるか」と「43. 自然体験活動を行う体力を十分にもっているか」の6項目であった。実習前後ともに評価の低かった項目は、水泳実習と同じ「11. 自然観察や野外活動等の経験を十分に積んでいるか」であった。最後に、野外活動実習であるが、実習前後ともに評価の高い項目は「43. 自然体験活動を行う体力を十分にもっているか」の1項目だけであった。

VII. 宿泊を伴う自然体験活動を経験することによる学生の意識の変化

水泳実習、スキー実習、野外活動実習ともに、実習後に実習前よりすべての項目の平均値が有意に伸長する結果を示しており、各実習を経験することによって、自然

表3 授業前後のすべての受講生の調査結果

	水泳				スキー				野外活動			
	事前		事後		事前		事後		事前		事後	
1	3.22	± 0.79	3.77	± 0.79	3.34	± 0.85	3.87	± 0.71	3.25	± 0.83	4.05	± 0.67
2	3.14	± 0.73	3.69	± 0.79	3.27	± 0.67	3.76	± 0.62	3.23	± 0.88	3.89	± 0.80
3	2.86	± 1.02	3.90	± 0.81	2.98	± 0.94	4.00	± 0.76	2.95	± 1.03	4.07	± 0.64
4	2.63	± 1.02	3.82	± 0.89	2.84	± 0.97	3.78	± 0.85	2.93	± 1.03	4.02	± 0.70
5	2.60	± 0.94	3.30	± 0.83	2.40	± 1.02	3.24	± 1.08	2.75	± 1.06	3.57	± 0.92
6	3.15	± 0.79	3.61	± 0.67	3.24	± 0.81	3.72	± 0.75	3.09	± 1.06	3.86	± 0.92
7	2.55	± 0.99	3.94	± 0.74	3.00	± 0.87	3.51	± 0.95	3.14	± 1.05	3.75	± 0.90
8	2.40	± 0.91	3.84	± 0.77	2.82	± 0.84	3.28	± 0.96	2.91	± 0.91	3.66	± 0.81
9	2.52	± 0.84	3.37	± 0.77	2.70	± 0.87	3.41	± 0.83	3.05	± 1.10	3.82	± 0.87
10	2.49	± 0.90	3.23	± 0.83	2.74	± 0.91	3.28	± 0.88	3.14	± 1.06	3.68	± 0.95
11	2.35	± 0.99	3.23	± 0.86	2.52	± 1.07	3.26	± 0.92	2.86	± 1.22	3.80	± 0.92
12	2.90	± 0.83	3.60	± 0.72	2.79	± 0.76	3.43	± 0.75	2.86	± 0.90	3.50	± 0.94
13	2.63	± 1.00	3.35	± 0.77	2.52	± 0.98	3.20	± 0.95	2.68	± 1.06	3.45	± 0.99
14	3.60	± 0.85	4.15	± 0.80	3.32	± 0.73	3.83	± 0.70	3.14	± 1.06	4.18	± 0.72
15	3.84	± 0.88	4.31	± 0.81	4.05	± 0.71	4.44	± 0.65	3.36	± 0.90	4.39	± 0.77
16	3.79	± 0.89	4.26	± 0.81	4.05	± 0.55	4.41	± 0.57	3.55	± 0.83	4.43	± 0.62
17	3.39	± 0.81	3.93	± 0.81	3.24	± 0.59	3.78	± 0.66	3.23	± 0.92	3.95	± 0.72
18	2.66	± 0.83	3.51	± 0.72	2.56	± 0.73	3.33	± 1.01	2.95	± 1.06	3.93	± 0.64
19	2.92	± 0.73	3.71	± 0.65	3.04	± 0.74	3.59	± 0.78	2.95	± 0.92	3.68	± 0.91
20	3.84	± 0.85	4.18	± 0.76	3.85	± 0.81	4.07	± 0.72	3.66	± 1.04	4.25	± 0.63
21	3.28	± 0.72	3.80	± 0.67	3.48	± 0.61	3.84	± 0.65	3.11	± 0.77	3.89	± 0.87
22	4.04	± 0.79	4.31	± 0.78	4.24	± 0.66	4.46	± 0.53	3.82	± 1.03	4.36	± 0.82
23	3.40	± 0.63	3.90	± 0.64	3.63	± 0.60	4.01	± 0.56	3.34	± 0.82	4.05	± 0.62
24	3.66	± 0.70	4.07	± 0.68	3.65	± 0.61	4.12	± 0.61	3.34	± 0.79	4.05	± 0.77
25	2.67	± 0.86	3.50	± 0.75	2.80	± 0.73	3.60	± 0.75	3.07	± 0.82	3.86	± 0.79
26	3.48	± 0.74	3.91	± 0.72	3.63	± 0.76	3.98	± 0.66	3.43	± 0.82	4.16	± 0.68
27	3.44	± 0.76	4.01	± 0.78	3.56	± 0.76	4.07	± 0.69	3.34	± 0.89	3.95	± 0.72
28	3.24	± 0.73	3.84	± 0.71	3.38	± 0.66	3.77	± 0.70	3.14	± 0.85	3.93	± 0.74
29	3.22	± 0.68	3.77	± 0.74	3.21	± 0.72	3.70	± 0.74	3.07	± 1.07	3.84	± 0.92
30	2.85	± 0.82	3.56	± 0.80	2.94	± 0.75	3.52	± 0.71	3.09	± 0.92	3.82	± 0.78
31	3.13	± 0.73	3.70	± 0.70	3.17	± 0.75	3.63	± 0.64	3.02	± 1.03	3.95	± 0.89
32	3.46	± 0.72	3.91	± 0.75	3.61	± 0.62	3.94	± 0.62	3.27	± 0.90	4.00	± 0.79
33	2.75	± 0.84	3.41	± 0.85	2.82	± 0.71	3.29	± 0.88	3.07	± 0.88	3.66	± 1.07
34	2.69	± 0.82	3.39	± 0.85	2.84	± 0.82	3.28	± 0.95	2.98	± 0.89	3.61	± 1.00
35	2.90	± 0.75	3.55	± 0.77	3.11	± 0.71	3.59	± 0.84	2.93	± 0.73	3.50	± 0.74
36	3.85	± 0.82	4.18	± 0.89	3.96	± 0.85	4.22	± 0.71	3.82	± 1.04	4.36	± 0.73
37	3.27	± 0.69	3.83	± 0.73	3.46	± 0.69	3.85	± 0.66	3.27	± 0.77	3.86	± 0.66
38	3.85	± 0.78	4.20	± 0.78	3.87	± 0.65	4.11	± 0.74	3.43	± 1.11	4.07	± 0.81
39	3.72	± 0.77	4.19	± 0.73	3.95	± 0.61	4.30	± 0.62	3.39	± 0.58	4.09	± 0.53
40	2.78	± 0.84	3.44	± 0.85	2.99	± 0.78	3.49	± 0.78	3.16	± 0.64	4.05	± 0.55
41	3.06	± 0.76	3.62	± 0.74	3.06	± 0.72	3.60	± 0.67	3.02	± 0.88	3.84	± 0.78
42	4.01	± 0.97	4.40	± 0.89	4.52	± 0.56	4.65	± 0.49	3.77	± 0.80	4.48	± 0.57
43	3.71	± 1.06	4.18	± 0.96	4.28	± 0.71	4.50	± 0.67	3.98	± 0.99	4.61	± 0.62
	3.16	± 0.96	3.80	± 0.84	3.29	± 0.76	3.78	± 0.74	3.20	± 0.93	3.95	± 0.78

表4 自然体験活動の前後で変化の大きかった質問項目

	水泳	スキー	野外活動
3. 本実習に関する知識を身につけているか	○	○	○
4. 本実習に関する技術を身につけているか	○	○	○
5. 本実習を統括責任者として指導することができるか		○	
7. 事故等への応急処置に関する知識を身につけているか	○		
8. 事故等への応急処置に関する技術を身につけているか	○		
9. 自然の中から情報を読み取る能力を身につけているか		○	
10. 自然環境の保全と活用に関する知識を身につけているか			×
11. 自然観察や野外活動等の経験を十分に積んでいるか		○	○
14. 自然体験活動への情熱をもっているか			○
15. 自然体験を自らが楽しめる感覚、構えをもっているか			○
18. 自然体験活動を実施する場所の知識を身につけているか		○	○
20. 一般社会人としてのマナーと常識を身につけている	×	×	×
22. 児童・生徒に明るく振舞うことができるか	×	×	×
25. 児童・生徒に自然体験活動を指導する能力を十分に身につけているか		○	
31. 児童・生徒の自然体験活動に対する意義と価値を理解できているか			○
33. 児童・生徒の病気への対応に関する基礎的な知識を身につけているか			×
35. 児童・生徒への指導に関する知識を身につけているか			×
36. 自分自身の健康管理ができるか	×	×	×
37. 社会教育の目的・意義を認識できているか			×
38. 人権に配慮し、正確で丁寧な言葉遣いができるか	×	×	
42. 自らが元気に、楽しく活動に取り組むことができるか		×	
43. 自然体験活動を行う体力を十分にもっているか		×	

○：活動後、伸長の大きかった項目（伸長の平均値＋標準偏差以上）

×：伸長の小さかった項目（伸長の平均値－標準偏差以下）

表5 実習前後の学生の評価の高い項目と低い項目

	水泳		スキー		野外活動	
	事前	事後	事前	事後	事前	事後
5. 本実習を統括責任者として指導することができるか			×	×		
8. 事故等への応急処置に関する技術を身につけているか	×					
9. 自然の中から情報を読み取る能力を身につけているか	×		×			
10. 自然環境の保全と活用に関する知識を身につけているか	×	×	×			
11. 自然観察や野外活動等の経験を十分に積んでいるか	×	×	×	×		
12. 自然体験活動プログラムの企画・運営に対する指導者間の共通理解を図ることができるか			×			
15. 自然体験を自らが楽しめる感覚、構えをもっているか	○		○	○		
16. 自然に関する興味・関心をもっているか			○	○		
18. 自然体験活動を実施する場所の知識を身につけているか			×			
20. 一般社会人としてのマナーと常識を身につけているか	○		○			
22. 児童・生徒に明るく振舞うことができるか	○		○	○	○	
33. 児童・生徒の病気への対応に関する基礎的な知識を身につけているか				×		
34. 児童・生徒の病気への対応に関する実際の手当方法を身につけているか				×		
36. 自分自身の健康管理ができるか	○		○		○	
38. 人権に配慮し、正確で丁寧な言葉遣いができるか	○		○			
39. 他の教員、スタッフと協力するような人間関係づくりができるか			○	○		
42. 自らが元気に、楽しく活動に取り組むことができるか	○	○	○	○		○
43. 自然体験活動を行う体力を十分にもっているか			○	○	○	○

○：平均より評価の高かった項目（平均値＋2／3標準偏差以上）

×：平均より評価の低かった項目（平均値－2／3標準偏差以下）

体験活動を指導する際に必要とされる資質を身につけていると学生は感じていることが明らかとなった。特に、すべての実習前後で変化の大きかった項目をみると、各実習に関する知識・技術を身につけているかという項目であり、各実習を指導する際に必要な基礎的技能、知識を確実に身につけていることが示された。すべての実習において伸長の小さかった項目としては、「20. 一般社会人としてのマナーと常識を身につけているか」、「22. 児童・生徒に明るく振る舞うことができるか」、「36. 自分自身の健康管理ができるか」の3項目であった。この中で、一般的なマナーと常識については、学生同士での実習であり、マナーを意識できていないことがうかがわれる。「明るく振る舞うことができる」という項目については、保健体育を専攻する学生ということもあり、実習参加の有無に関係なく、明るく振る舞うことができる資質を有している学生が多いことがうかがわれた。

実習ごとに伸長の大きかった項目をみると、水泳実習は、「7. 事故等への応急処置に関する知識を身につけているか」と「8. 事故等への応急処置に関する技術を身につけているか」の2項目であった。これは、水泳実習が足のつかない海での実習であり、安全に十分に注意を向ける必要がある実習であることと、プログラムの中に、水辺での救助法および講義における心肺蘇生実習が含まれていることが大きく影響していると考えられる。自然体験活動は、通常よりも危険を伴う活動が含まれることになる。したがって、より安全に注意を払うようなプログラムを取り入れることで安全面に関する指導能力を高めていくことができると考えられる。スキー実習では、「9. 自然の中から情報を読み取る能力を身につけているか」、「11. 自然観察や野外活動等の経験を十分に積んでいるか」、「18. 自然体験活動を実施する場所の知識を身につけているか」、「25. 児童・生徒に自然体験活動を指導する能力を十分に身につけているか」という項目での伸長が大きい傾向がみられた。これらは、すべて自然に関する項目であり、スキー実習の雪上という環境は、より自然を意識させることができる実習であると考えられる。次に、野外活動実習では、「11. 自然観察や野外活動等の経験を十分に積んでいるか」、「14. 自然体験活動への情熱をもっているか」、「15. 自然体験を自らが楽しめる感覚、構えをもっているか」、「18. 自然体験活動を実施する場所の知識を身につけているか」、「31. 児童・生徒の自然体験活動に対する意義と価値を理解できているか」の5項目で大きな伸長がみられた。これらはすべて自然体験に関する項目であり、自然体験活動に対する情熱や楽しさ、意義や価値に関する項目が伸長していた。野外活動実習は、複数回目の実習であることと、テント泊で、自然の中で生活をする実体験することから、自然に対する知識、理解が深まることが推察される。

実習ごとの評価の違いを比較すると、実習後の野外活動実習の全評価項目の平均値が高い傾向を示していた。野外活動実習自体の持つ特性も影響しているとは考えられるが、野外活動実習は、3つの実習の最後に受講する学生が多いことから、自然体験活動を積み重ねることによって、自然体験活動を指導する際に必要な資質能力を

より高めていることが推察される。これは、表5に示した平均値に対して評価の高い項目、低い項目を調査した結果においても、野外活動実習は、評価の低い項目がなくなっていることから自然体験活動を指導するために必要な資質能力を高めていることを示しているといえよう。

複数の実習において学生の評価が高い項目は、「22. 児童・生徒に明るく振る舞うことができるか」、「42. 自らが元気に、楽しく活動に取り組むことができるか」、「43. 自然体験活動を行う体力を十分にもっているか」の3項目であった。これらは、個人の資質に関する項目であり、自然体験活動だけでなく教員として最低限必要な資質能力ととらえることができる。つまり、自然体験活動においても基礎的な教員としての資質を身につけることが前提にあることが考察できる。

複数の実習において評価が低い項目は「10. 自然環境の保全と活用に関する知識を身につけているか」、「11. 自然観察や野外活動等の経験を十分に積んでいるか」の2項目であった。これはどちらも自然に関する項目である。これは、教員を目指す学生の自然体験活動不足を示す結果であるといえる。しかし、2年次以降で行われる野外活動実習では、評価の低い項目ではなくなっていた。このことは、もともと自然体験活動が不足していると感じている学生でも、教員養成カリキュラムの中で、自然体験活動を積み重ねていくことによって、自然体験活動を指導していく際に必要な資質を伸長させることができることを示唆している。

VIII. ま と め

本研究では、宿泊を伴う自然体験活動を経験することによって教員を目指す学生の意識がどのように変化するか検討することであった。

先行研究でも示されていたように、教員を目指す学生は大学入学当初は、自然体験が不足している傾向がみられた。つまり、養成段階における自然体験活動が重要であるということになる。この自然体験活動も1回だけでなく、複数回体験することにより、より自然に対する知識、理解、指導能力を高めることができることが示された。また、学生だけで行われる実習では、一般的なマナーおよび児童・生徒への指導、対応に関する能力を身につけることが難しい傾向がみられた。さらに、自然体験活動を指導する際の資質能力を伸長させていくためには、養成段階においても、小・中学生の自然体験活動の指導補助等を経験できるようなカリキュラムを充実させていくことが重要であろう。

【参考文献】

- 1) 文部科学省 (2008) 体験活動事例集—体験活動のススメ. 文部科学省URL. (最終閲覧日2017, 10, 31). (http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/04121502/055.htm).
- 2) 文部科学省 (2012) 体験活動事例集—豊かな体験活動の推進のために—. ぎょうせい出版.
- 3) 国立青少年教育振興機構 (2010) 学校で自然体験を

- すすめるために、国立青少年教育振興機構（最終閲覧日2017, 10, 31）.
[\(http://www.niye.go.jp/kenkyu_houkoku/contents/detail/i/60/\)](http://www.niye.go.jp/kenkyu_houkoku/contents/detail/i/60/)
- 4) 土居洋平（2008）「地域コミュニティ問題」の現状と課題—農村を中心に、その問題の構図を探る—, 共済総研レポート2008, 2, pp. 2-10.
 - 5) 文部科学省（1998）中学校学習指導要領, 東山書房.
 - 6) 文部科学省（2008）中学校学習指導要領, 東山書房.
 - 7) 文部科学省（2017）中学校学習指導要領, 文部科学省URL.（最終閲覧日 2017, 10, 31）.
[\(http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2017/06/21/1384661_5.pdf\).](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2017/06/21/1384661_5.pdf)
 - 8) 降旗信一・宮野純次・能條 歩・藤井浩樹（2009）環境教育としての自然体験学習の課題と展望, 環境教育, 19(1), pp. 3-16.
 - 9) 宮野純次（2014）教員養成における自然体験学習の在り方について, Synapse, Vol.37, pp. 20-23.
 - 10) 濁川明男・柴田好章（1998）教員養成課程における体験実習の意義—自然体験実習の試みを通して—, 上越教育大学研究紀要, Vol. 18(1), pp. 91-104.
 - 11) 豊澤弘伸・狩野克彦・松浦光和（2010）教員養成における「体験」活動に関する一考察, 宮城学院女子大学発達科学研究, 10, pp. 19-28.
 - 12) 文部科学省（2017）学習指導要領特別活動編, 文部科学省URL.（最終閲覧日 2017, 10, 31）.
[\(http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2017/07/04/1387018_11_2.pdf\).](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2017/07/04/1387018_11_2.pdf)
 - 13) 小林道正・杉本克之・佐伯英人（2010）小学生の集団宿泊活動の教育効果—小学校自然体験活動のモデルプログラムについて—, 国立青少年教育振興機構研究紀要, 第10号, pp. 109-117.
 - 14) 佐伯英人・石原貴志・二橋正宏・高柳周三・宮本真由美・齋藤央美（2008）集団宿泊的行事の教育効果に関する研究（Ⅱ）, 国立青少年教育振興機構研究紀要, 第8号, pp. 25-35.
 - 15) 伏見 滋（2009）「自分づくり教育」を推進する宿泊体験活動の効果的な進め方～「泉ヶ岳どきどき体験広場」の実践を通して～, 国立青少年教育振興機構研究紀要, 第9号, pp. 115-126.
 - 16) 国立青少年教育振興機構（2014）学校教育における『集団宿泊活動』の手引き—各教科等の関連を図る教育課程編成指導資料—.
 - 17) 別惣淳二・長澤憲保・上西一郎・一山秀樹（2003）自然体験活動指導に求められる教員の資質能力に関する調査研究, 学校教育学研究, pp. 1-13.
 - 18) 松永由弥子・塚本博之・岩崎 巧（2011）大学生の体験活動の現状と課題, 静岡産業大学情報学部研究紀要, 13, pp. 243-263.
 - 19) 長澤憲保（2002）自然体験活動において学校教育教員に求められる指導資質能力に関する研究, 平成13年度兵庫教育大学教育改善推進費研究, 研究報告書.
 - 20) 長澤憲保（2004）子どもの自然体験活動に求められる学校教員の資質能力形成に関する研究, 平成15年度兵庫教育大学プロジェクト研究, 研究報告書.
 - 21) 長澤憲保（2005）子どもの自然体験活動の指導に求められる学校教員の資質能力形成に関する研究, 平成16年度兵庫教育大学プロジェクト研究, 研究報告書.